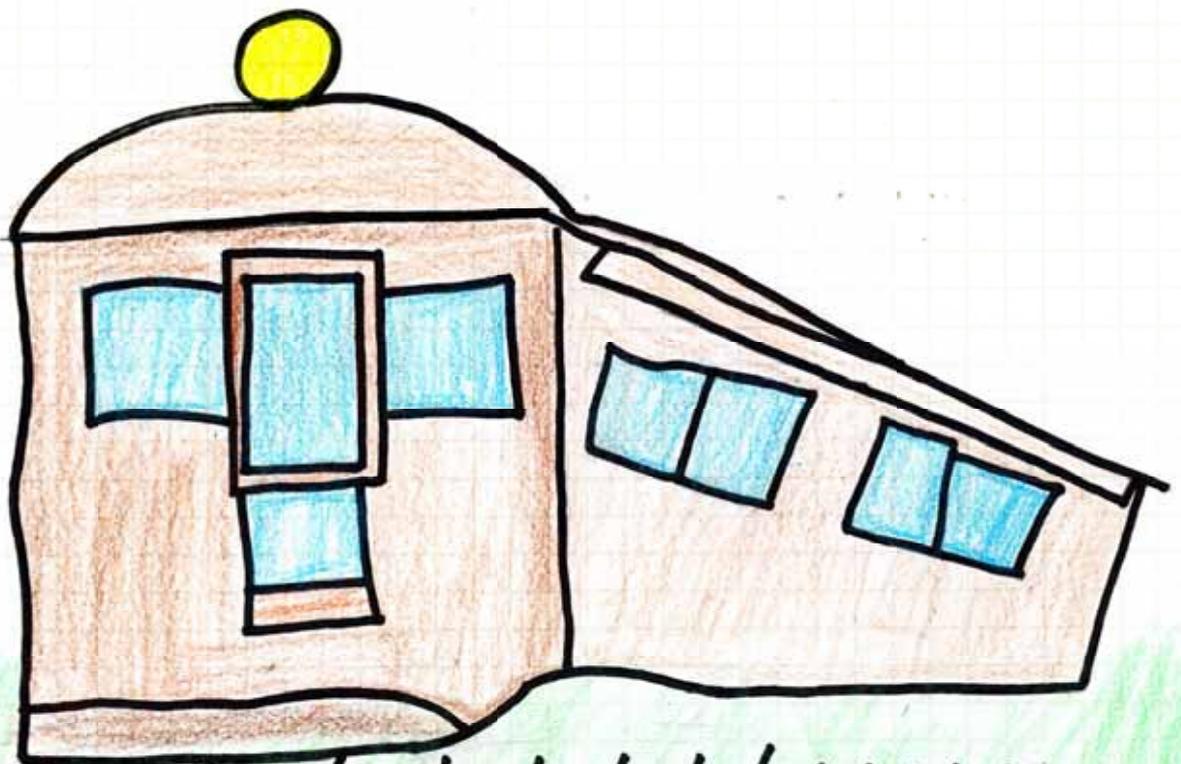


まぼろしの

上り屋しき駅



3年3組 池田あや花

もくじ

1. しらべるきっかけ

2. 「上りやしきとどうしていうのかな？」

3. おかしの上り屋しきえき

3-① おかしの地図をみてる

- 8まいの地形図
- こうくうしゃしん

3-② 西武鉄道のれきしからしらべる

- 年表
- 当時の写真をみる
- 当時のパンフレットから

3-③ おかしをしる人の話をきく。

① 「としまのきおく」の動画

② 近所の人にきく

4. 「上り屋しきえき」の今

- 今もこの「上り屋しき」の名前
- 上り、下り線ホームのあと

5. おかしの写真の場所をさがしてみよう

- 西武線、山手線の今・おかし

6. まとめかんそう

7. さんこうにした本・ホームページ

1. しらべるきっかけ

わたしのすんでいるじゅう所は、西池ぶくろですが、むかしは、「雑司が谷(ぞうしがや)」といったそうです。

町内会は「上り屋しき町会」です。家の近くにある公園は「上り屋しき公園」といいます。前から「上りやしき」っておもしろい名前だな、上りさんという人のやしきかなと思っていました。

この間、家の近くのふみ切りをわたる時、ふみ切りの横にあるコンビニのうらと線路の間、に少しうしぎなスペースがあることに気づきました。どうしてだろうと思っているとお母さんに「むかしはこのあたりえきがあつたらしいよ」と言われました。それを聞いてわたしは、こんな近くにえきがあつたらとてもべんりだったのに何でなくなったんだろうと思いました。

今回きえた「上り屋しき」のなぞをしらべてみたいと思いました。またそもそも「上り屋しき」とはどんな意味があつたのかもしらべたくなりました。

2. 「上りやしき」とどうしていうのかな？

「上りやしき公園」についてとしま区のホームページをみると『お上(あがり)やしき』とは江戸時代のかり場の休けい戸のこと。やがて土地名となり、げんざいは公園の名前としてひきつがれたとあります。江戸時代このあたりの南がわは、とく川家のおとのさまが、タカヤリシシをかって楽しむおしりょ場でした。そしてちょうどこのあたりに「お上りやしき」といって上がってもらって休む休けい戸があったそうです。それが由来です。

しかし一方で、じ書で「上りやしき」をしらべてみると、「江戸時代にはんざいなどによりばくふ、またははん(やく所)にぼっしゅうされたやしき」とあります。(200じ書)『若葉抄』という昔の本にも「とり上げられたやしき」を「きりやしき」としたかかれています。これを由来とする考えもあります。どちらが正しいのかは昔のことなので分かっていません。これら2つの由来から「上りやしき」という言葉がこのあたりの土地名になったと思います。5

3. おかしの上り屋しき駅

3-① おかしの地図をみる

(次のページから8まい)

1909(明治42)年から2017(平成29)年までの
やく100年の間の土地図(1万分の1)が8まい
ありました。〈それをらべて分かったこと〉

。西武線は1909(明治42)年の時にはまだ
できていない。

。1916(大正)年、今の西池2丁目あたりの土地が
「あがりやしき」という地名になっている。

。1929(昭和4)年、「上り屋しき」えきがあった!

。1937(昭和12)年、ずいぶん家がふえている
わたしの通う目白小学校もあった!!

。1945(昭和20)年せんそうのせいか何も
なくなって まっ白なのにおどろいた。

上り屋しきえきもなくなっている

上り屋しきえきのまわりは ばくだんがおちなかった
のか家かのこっているのがよく分かる 6

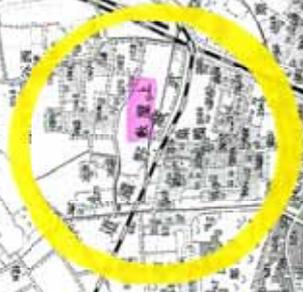
①1909(明治42)年

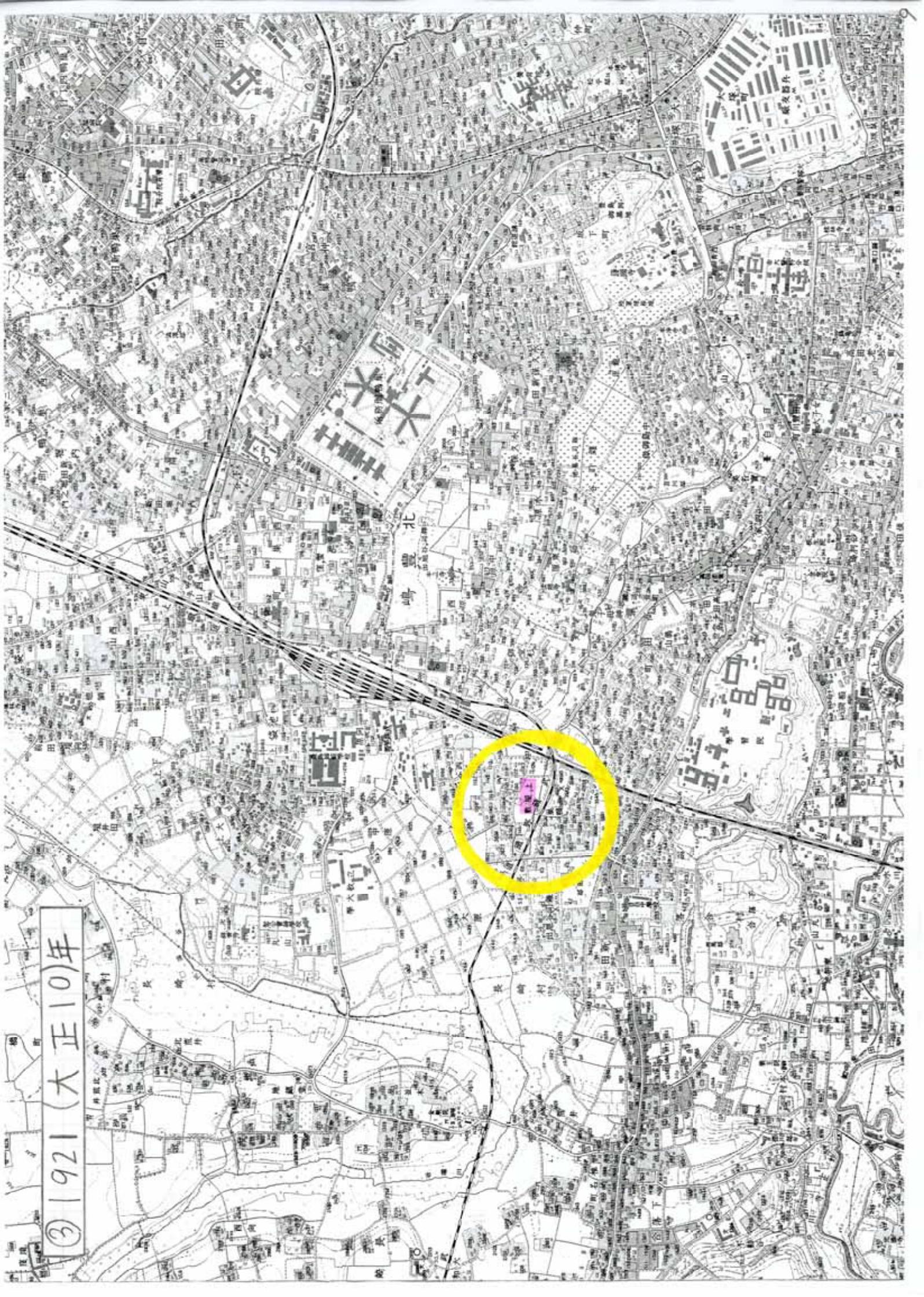
まだ西武糸線
(この時はおさしの
糸線)の
糸線各もない



② 1916 (大正5) 年

「敷屋上」の
(右から読む)
地名ができた。





③ 1921 (大正10)年

大正

鳴豊北

大正

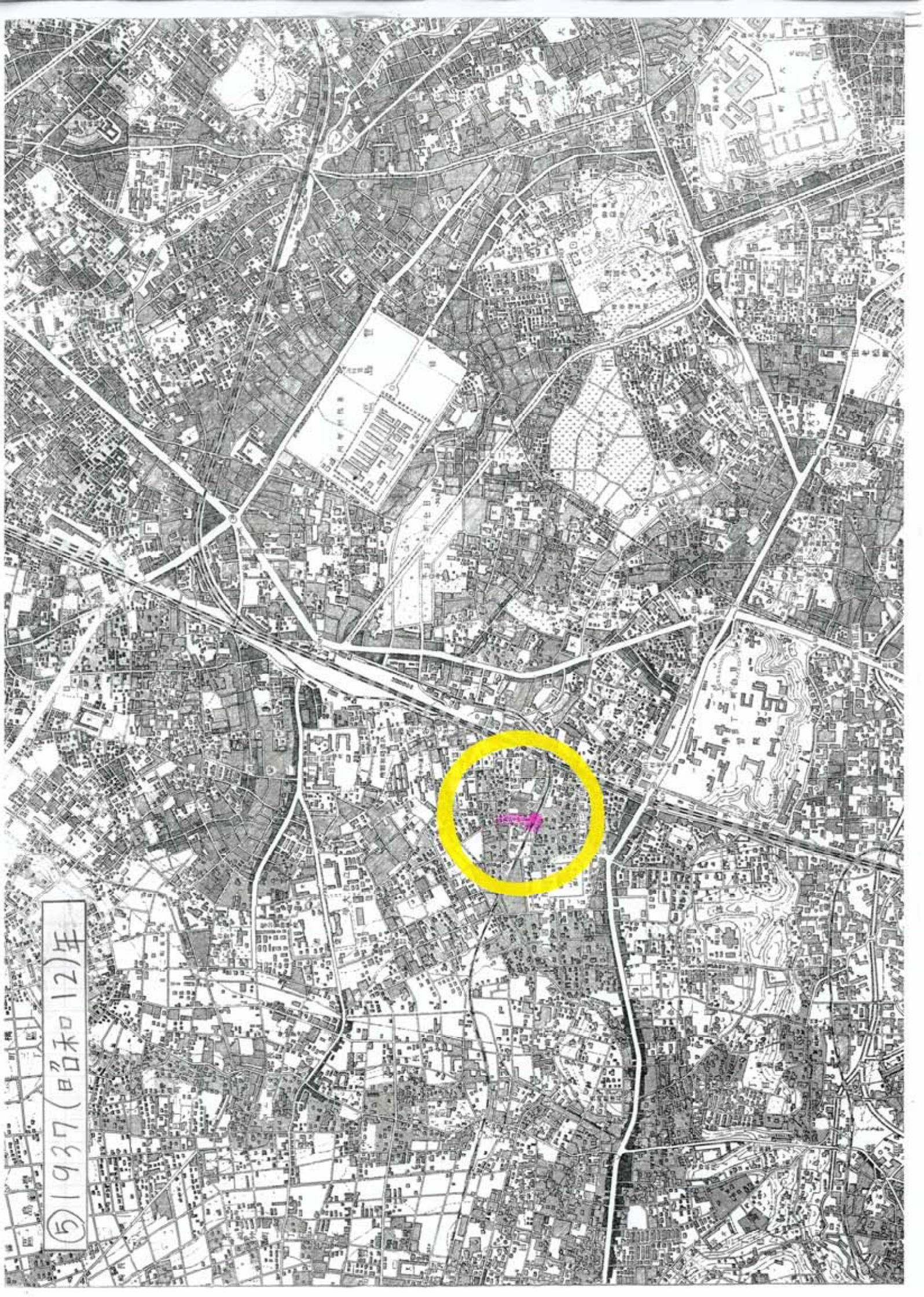
大正

大正

④ 1929(昭和4)年

「あがりやしき」馬尺
発見!!





⑤ 1937 (昭和12)年

⑥1945(昭和20年)

せんそうで何も
ないのがよく
わかる。あ
がりやいき
きも地図
からなくな
りました。

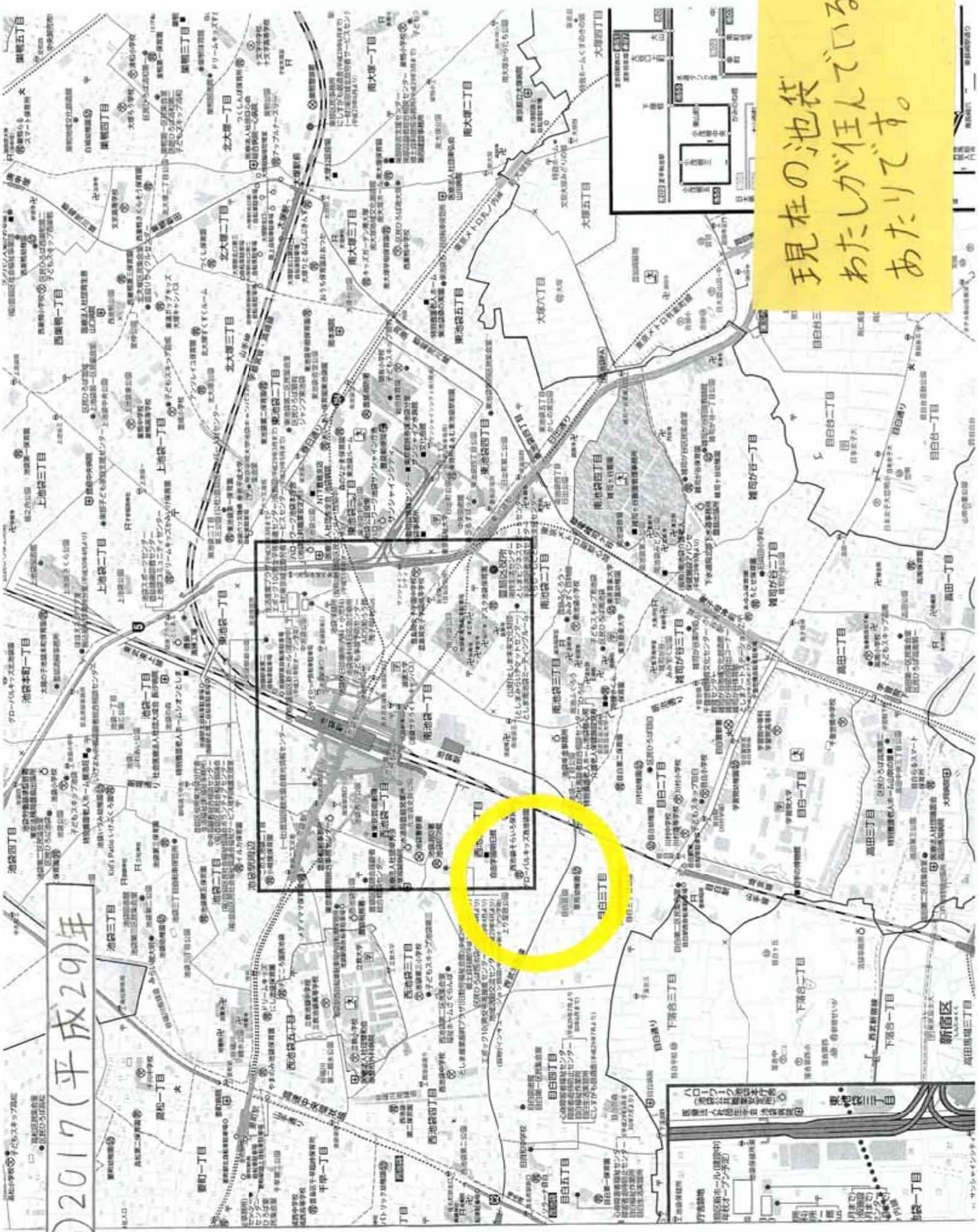


⑦ 1956 (昭和31)年～57 (昭和32)年

周辺は
まだ西池袋では
なく「雑司谷町」の
住所になっている。



⑧ 2017(平成29)年



現在の池袋
あたしが住んでいる
あたりです。

さんこう



1947(昭和22)年7月9日
アメリカ人さんさつえいの空中写真(国土地理院ホームページより)
ホームがよく分かる

3-② 西武鉄道のれきしからしらべる

<年表>

年 月 日	できごと
1912(明45)年5月7日	武蔵野(おさしの)鉄道が せつ立された
1915(大4)年 4月15日	池袋~飯能の間が開通 した。
1929(昭4)年 5月25日	上り屋しきえき開きょう
1945(昭20)年 2月3日	上り屋しきえき休止
1946(昭21)年 11月15日	西武鉄道と会社の名前 をへんこうした
1953(昭28)年 1月15日	上り屋しきえき はい止

上り屋しきえきは1929(昭4)年に開きょうしたものの
1945(昭和20)年にはせんそうが はげしくなつたた
め休止となり、1953(昭和28)年にははい止されま
た。

わずか16年しか使うことはなかつたと知つて
本当におどろいたし、もったいないと思ひました。

3-② 西武金鉄道のれきをしらべる(つづき)

〈 当時の写真をみる 〉



上り屋敷駅に停車中の豊島園発池袋行きサハ2322。画面後方に山手線を乗り越える10パーミル上り勾配とR200の曲線が見える。1937(昭和12)年8月22日 上り屋敷 撮影:橋本哲次

池袋から1.0kmのいちにあり学習院大学立教文大学に通う人がべんりになるまできで作られた。

(写真でみる西武金鉄道の100年
うちページ)

短命に終わった謎多き駅「上り屋敷」



上り屋敷駅に停車する武蔵野鉄道デハ5551。駅は、相対式ホーム2面2線で、跡地は現在も西武鉄道が所有している。

開業から休止(そのまま廃止)まで、わずか16年足らずの営業だった上り屋敷駅。池袋駅近郊に開設された理由や廃止理由については諸説あり、謎が多い。

はい止の理由は池袋のえきのゆうそうカがふえたため、上り屋しきえきが近すぎてうん行にトラブルがおきるとされた。

もう一つは「ごくじ(文京区)」の方面へ線路をのばす計画があり上り屋しきえきで2つに分かれるよていだったが、計画がなくなったためひつようなく

「な」たためともいわれている。

(「知れば知るほど面白い西武鉄道106ページ」)



撮影：萩原二郎

上り屋敷駅に停車中のモハ1320形(昭和14年)

武蔵野鉄道で最初の鋼製車として日本車輛で製造。後年、流山電気鉄道(現・流鉄)・蒲原鉄道に譲渡された。

(「西武池袋線

街と駅の1世紀

12ページ」)

当時の電車の車内のようす



モハ550形車内 旧西武鉄道モハ550形の客室内。川崎車輛製の深いシングルルーフが特徴。運転台は中央に配置されているのがわかる。

1939(昭和14)年4月16日 撮影：宮松金次郎



サハ112車内 ダブルルーフの武蔵野鉄道サハ112の客室内。「セビロ服とオーバー 丸正」「特選 小紋 伊勢丹」などの中吊り広告が見える。

1939(昭和14)年11月23日 撮影：宮松金次郎

「写真でみる西武金鉄道100年」

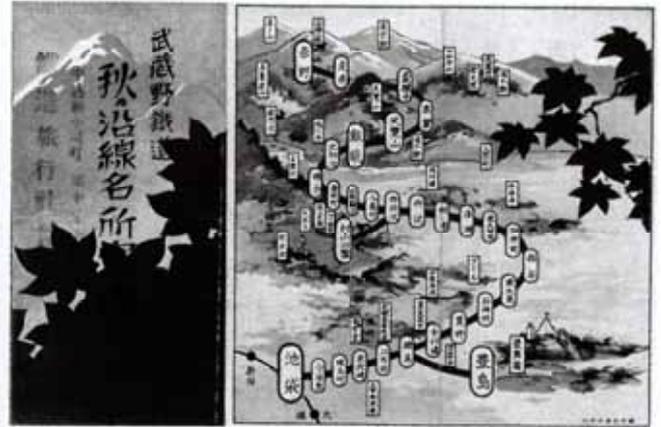
12ページより

< かんそう >

- リョウしかしゃリョウがない
- 中がバスみたい。
- 今とちがって木が使われている。
- 都電あら川線に. にている
- 車内をカラーで見たい
- 電気が今とちがう
- リョウしかないからこんでそう

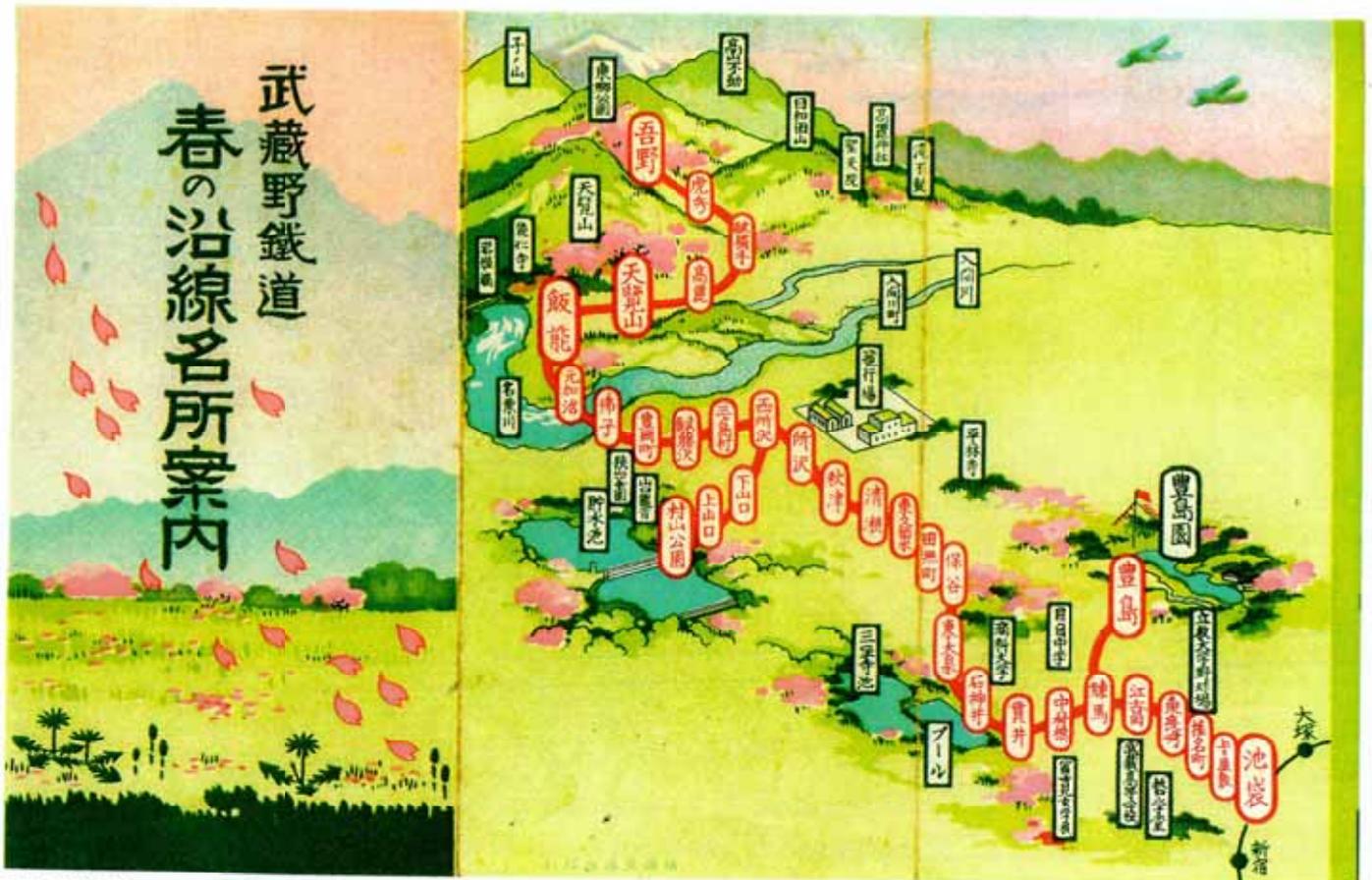
< 当時のパンフレットから >

むさしの鉄道だった
1930年ごろに作られた
「沿線名所案内」は
今でいうパンフレット
みたいなものです。上り
屋しきえきもちゃんとのって
います。



18
武蔵野鉄道 秋の沿線名所案内
昭和4(1929)年~昭和6(1931)年頃 鉄道博物館蔵
武蔵野鉄道沿線の秋の名所案内。

(「特別展 鉄道の開通と
小さな旅」パンフレットページ)



春の沿線名所案内 西所沢~村山公園間、飯能~吾野間、上り屋敷駅(ともに1929年開業)、天覧山駅(1931年4月開業)の記載がある一方、1931(昭和6)年12月開業の東飯能駅がないため1931(昭和6)年春に発行されたと思われる。なお、豊島線の開業は1927(昭和2)年10月であった。
所蔵:白土貞夫

(「ネコムック 写真で見る西武金鉄道の100年」14ページ)

③-③ おかしをしる人の話を聞く

① 「としまの記おく」をつなぐ会の動画をみる

「としまの記おく」はとしまくにすむ60さい以上の
人におかしの話をしてもらいそれを動画に
とってほぞんしている活動カです。

たくさんの動画の中から「上りやしきについて
さがしてみました。



NPO法人(特定非営利活動法人)

「としまの記憶」をつなぐ会

としまの文化は、としまの記憶の蓄積から

[トップページ](#) | [動画アーカイブについて](#) | [動画一覧](#) | [推進体制](#) | [リンク集](#) | [お問い合わせ](#)

文字サイズ [標準](#) [大](#)

[トップページ](#) > [動画一覧](#) > [長谷川 洋子](#)

「長谷川 洋子」の動画一覧

現在の登録数: 2件



狐塚、大野の森を歩く

語り手: 長谷川 洋子
現在の地名: 西池袋
時代: 戦前, 戦時中

20(2(平成24)年撮影)

[動画をみる](#)



今はなき上り屋敷駅

語り手: 長谷川 洋子
現在の地名: 目白, 西池袋
時代: 戦後復興期

2012(平24)年撮影

[動画をみる](#)

動画を検索する

[テーマ特集](#)から探す

🕒 [時代](#)から探す

📍 [地域](#)から探す

👤 [語り手](#)から探す

検索したい語句を入力してください。

[検索](#)

[地図](#)から探す

2つありました。

(「としまの記おく」をつなぐ会
ホームページより)

< ビデオを見て分かったこと >

- 土のもってあるような小さなえきだった。
- えきの横に電話ボックスがあった。
- 会社へ行く人がたくさんおりて目白えきへむかって朝ぞろぞろ歩いていた。
- 「大野の森」という森が今の目白庭園あたりにあった。
- お店も少なくさびしいえきだった。
- 電車は茶色かった。

< かんそう >

- 電話ボックスをじゃ話きをとってくるくる回して「何番おねがいします」というのは今とぜんぜんちがってびっくりした。
- どうして「きつねづか」というのか、うしぎでした。きつねがいはいたのかなと思いました。
- 大野の森はどんな森だったか知りたいです。
- やっぱ「上りやしき」の土がもってあるえきとホームをみてみたいです。

80~60年前

電話を利用する人が増え、公衆電話が増えた。1953（昭和28）年に、商店などによく自立赤い公衆電話が置かれた。

公衆電話

1925（大正14）年に、自動電話から公衆電話へと呼び名が変わった。写真は、昭和時代初期の公衆電話。



赤電話

1954（昭和29）年ごろに登場した公衆電話。赤い色から、「ダルマ」と呼ばれて親しまれた。10円玉を入れると、電話がかけられた。

写真 / 東日本電信電話株式会社

「くらべる100年もの」がたり

④町の道具とのり物」
P. 36より

② 近所の人に話を聞く

わたしが入っている上り屋しき町会2-B1はん
はん長の小林武司さんにおかしの話を聞きました。

① このあたりはいつから上り屋しき町会と
いわれていますか？

→ 「この町会はしょう和33年にできました。
その時からいわれています。」

② 上り屋しきえきがあったことはおぼえていますか？

→ 「わたしはしょう和19(1944)年に生まれた
ので、小さなころにはもう、えきのたてものも
ホームもありませんでした。」

③ 上りやしき公園はありましたか？

→ 「ありませんでした。大きなムクの木が
あり、それを中心にずいぶんさいきんに
(しょう和56年)せいびされました。」

④ このあたりは、おかしはどんなかんじ
でしたか？

→ 「上り屋しきえき」はありませんでしたが、
えきの前からずっとまっすぐ、山手線に
ぶつかるところまで、お店がたくさん
あり、とてもにぎやかでした。

やおやさん、魚屋さん、お肉屋さん、
もちろん、交番、せんとう、ゆうびん局も
あったんですよ。」

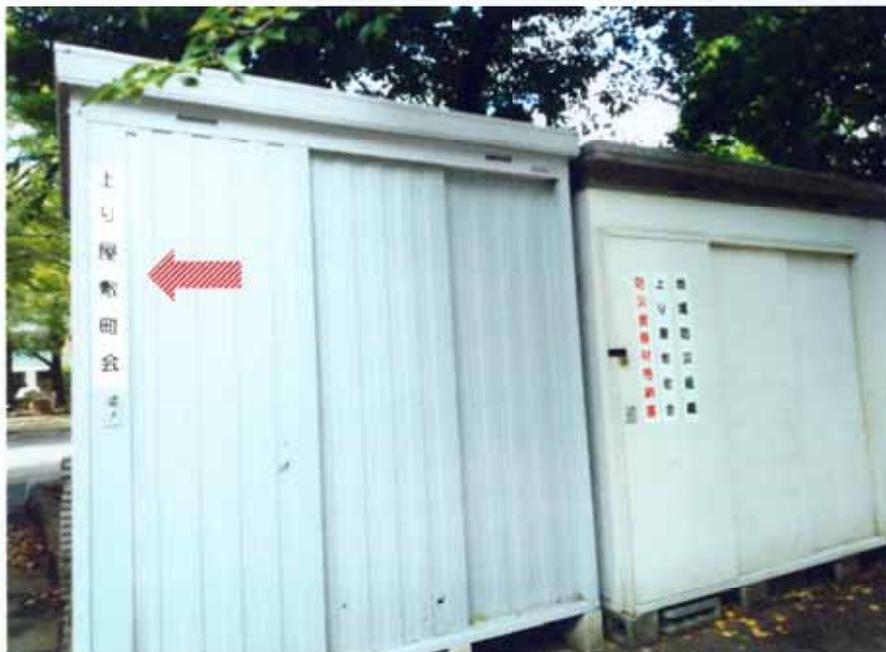
4.「上り屋しき馬尺」の今

「今ものこる上り屋しきの名前」

①上り屋敷公園



②上り屋敷町会



(2018.8.5 さいえい)

上り線ホームのあと
く上り、下り線ホームのあと

上り線ホームのあとだと思われる場所



少し草のはえている空間がある



(2018.8.5 土曜日)



ホームとえきしゃがあったと
思われる場所には少し前まで
コンビニがありました。

(2018.8.14 さいえい)

下り線ホームのあとだと思われる場所



土がもってある場所があった。



(2018.8.5 さいえい)

上り糸糸がわのろ場のつきあたり。
ホームへのりおりする所をふさいだと思わいたが
あった。



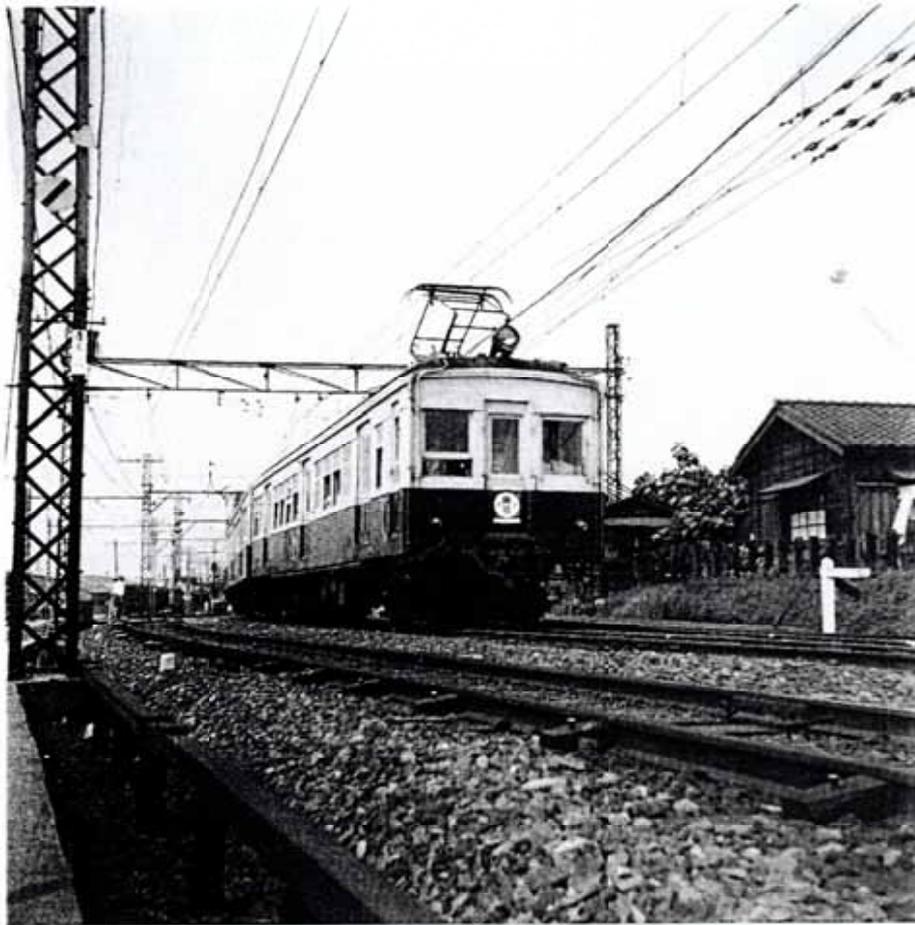
<かく大写真>

このちょうどむこうに下りホームのあとの草地がある。



(2018.8.5 かつえい)

5. おかしの写真の場所をさがしてみよう。



西武池袋線車両（昭和32年11月撮影ノ戸井真雄）西武池袋駅を出発して飯能駅へと向かう西武池袋線の電車。撮影場所はビックリガードの南側、車両を留置する引込線から撮影された。写真の後方に西武池袋駅があり、車両はビックリガードを過ぎ、国電の跨線橋に向かって走っているところだ。車両の色は上がクリーム色、下が茶色のツートンカラー。右後方に小さくアドバルーンが写っているが、撮影時にはまだ開店したばかりだった三越池袋店のものかもしれない。

「目で見る豊島区の
100年

108ページより

今は高い所をはしている



(2018.8.14 さつえい)



武蔵野鉄道の高架の下を走る山手線 目白駅と池袋駅の中間付近。昭和初期の山手線。手前に見える踏切は、現在は「開かずの踏切」となって残っている山手線の数少ない踏切の一つである。

「写真にみる豊島60年のあけみ展」
25ページより

まだ花のはしはなくて、みせりがある。



(2018.8.14 さつえい)



池袋駅南口（昭和35年10月 撮影／五十嵐球一郎）昭和30年代半ばの池袋駅南側、ビックリガード方面から駅を望んだ風景である。左側で建設が始まっているのは東武会館（東武百貨店が入る）と思われる。池袋駅には跨線橋が架けられている。ほぼ正面に見える白い建物が東横百貨店（西1駅ビル）、左端に見えるのは、鉄道教習所の一部だろう。

「目で見る豊島100年」

122ページより

ここがいちばんおかしににている気がする。



（2018.8.4 さつえい）

6. まとめ・かんそう

〈わかったこと・考えたこと・もっと知りたいこと〉

- ・上りやしきえきはたった16年しか使われなかった。
- ・おかしはしゃりょうが1りょうしなかった。だからとてもこんでいたと思う。
- ・せんそうのあとは家がとても少なくなっていた。
- ・西武鉄道はおかしむさしの金鉄道という名前としてとてもおどろいた。
- ・わたしの家の近くにしょう店がいがあったとしてにぎやかだったということがわかった。
今あったらとてもべんりでしたのしかったのにも思いました。
- ・ホームのあとが今もなんとなくのこっていてすごいなと思いました。

- ・ せいで金失道に電話したけれど上リやしきえきについて知っている人がだれもいなくてざんねんでした。
- ・ じっさいにえきをみたり、つかっていた人の話をもっとたくさんしりたかったです。

7. さんこうにした本

① 「西武池袋線 街と駅の1世紀」

矢嶋秀一著

2014年4月1日 彩流社

② 「西武鉄道 1950～1980年代の記録」

矢嶋秀一著

2016年1月5日 アルファベータブックス

③ 「知れば知るほど面白い 西武鉄道」

辻良樹 著

2016年10月7日 洋泉社

④ 「トラベルMOOK 西武鉄道の世界」

平成27年11月4日 交通新聞社

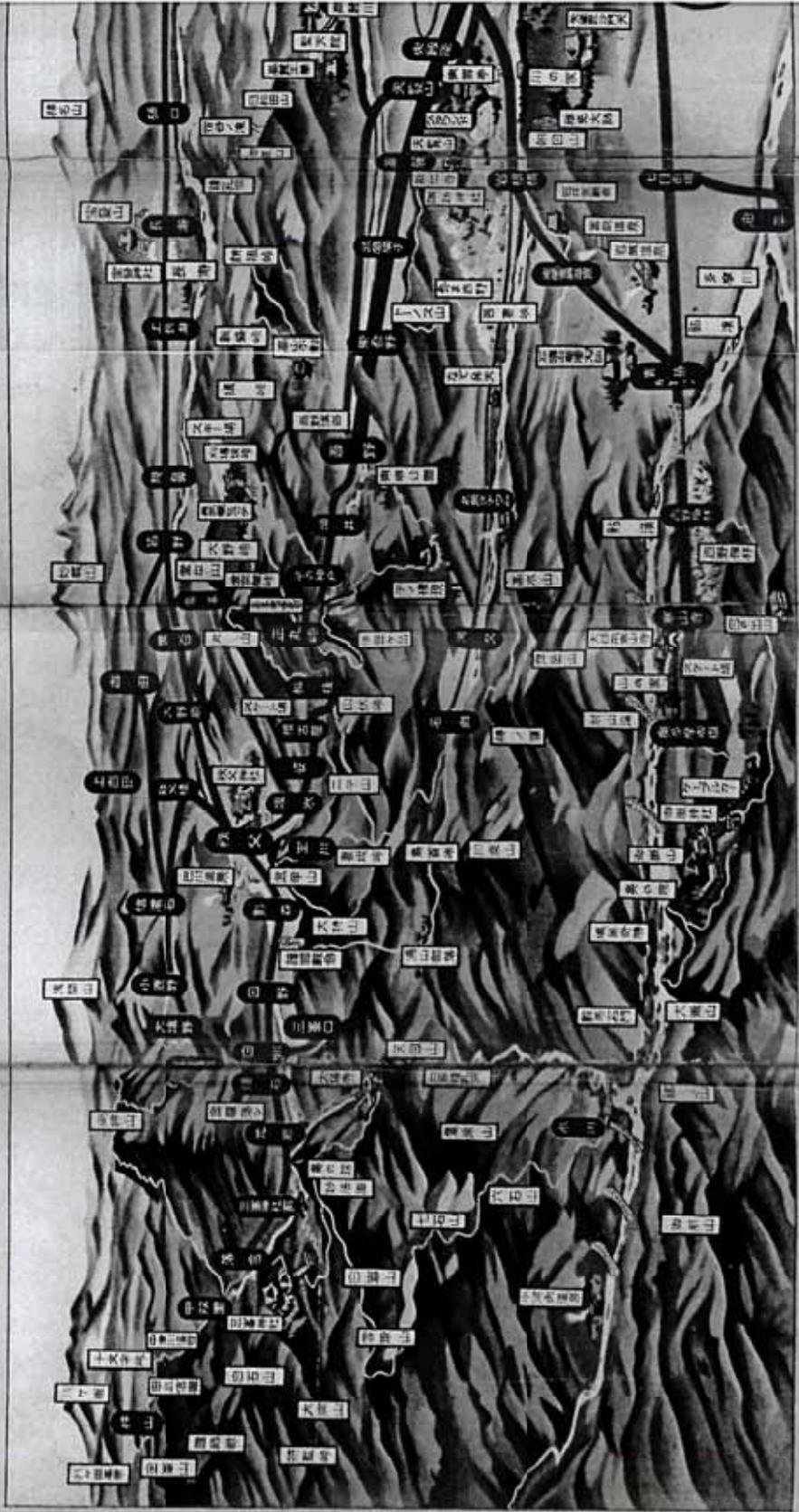
⑤ 「ネコムック 写真で見る西武鉄道100年」

2013年7月19日 ネコパブリッシング

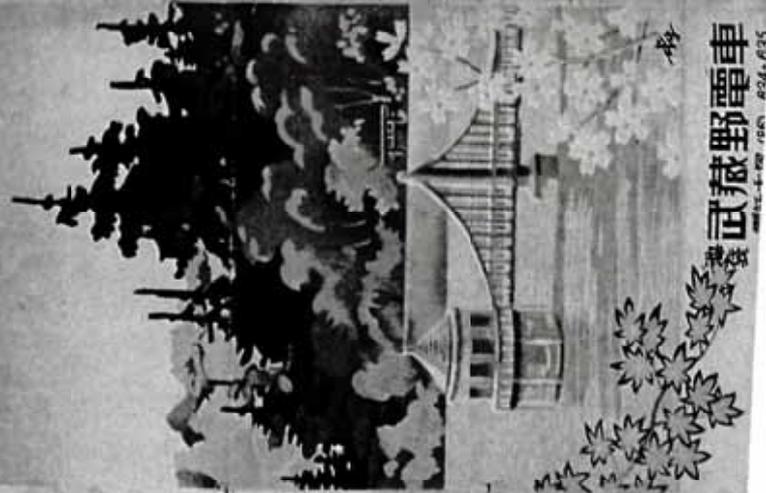
⑥ 「特別展 鉄道の開通と小さな旅」

パンフレット 2012年9月22日 練馬区立

石神井公園ふるさと文化館



武蔵野電車
沿線案内



武蔵野電車
沿線案内

沿線案内

「特別展 鉄道の開通と
小さな旅」
パンフレットのうろくより